

うつけ通信 vol.5

新年あけましておめでとつござ
います。昨年に引き続き本年も
『うつけ通信』をお引き立てのほ
ど宜しくお願い申し上げます。そ
れでは早速、ご愛読いただいでい
る皆様へ、呼吸大学の宮本氏より
新年のご挨拶をお届けさせていた
だきたいとおもいます。



皆さん本年もどうぞよろしくお
願ひします。昨年は木村先生をは
じめとする皆様のおかげでいろい
ろな幅広い進展がありました。そ
うした皆様にとって、この年がよ
り良き年でありますよう願ひいた
します。

新年を迎えまして、皆様「今年
こそは…」とか「あの事を…」と
か、きつと考えておられること
でしょう。僕はと申しますと、ま
もな事がまともと評価される世
中づくりに必要な「三つの村」の
創設に一步でも二歩でも進展して

くれればと願っています。このようにい
うと、この「三つの村」づくりは僕の念願のよ
うにきこえてしましますが、ほんとうは一個
人程度の念願ではないのです。たかだか人類
の夢でもありません。それらをはるかに超え
た、これは万物を守る地球、宇宙が喜ぶこ
と、逆に表現するなら地球が主意するところ
であることをご理解いただけると幸いです。
地球が意図する方向に加勢する一員として、
この「三つの村づくり」にご支援ご参加して
いただく人々が一人でも多くなることに僕は
努力したいとおもっています。

今年はそのはじめの一步を踏み出す年にな
るだろうという予感が感じられるある一通の
表明文を、先日ある方からいただきました。
ここにその表明文を添えて、みなさまのご協
力によって進展する打開状況に深く御礼申し
上げます。

『呼吸大学への支援表明』

有害な揮発物を発する接着剤・防炎加工の
建築素材・家中に散布される防腐剤など、薬
物で囲み固められた建築物、またハウスダ
ストやカビやダニが発生する住宅によって、
シックハウス症候群という問題が発生してい
ます。荒んだ住居による健康被害は、アト

ピーやゼンソクまたは不眠症などが挙げられ
ています。

さらに、住環境の悪化による被害はアト
ピーやゼンソクだけでなく、さまざまな病
を引き起こしています。癌、血行障害、婦人
病・不眠症・自律神経失調症、免疫力の低下、
イライラしやすい、疲れやすいなど、数え上
げればきりがありません。

自分自身の抱えているさまざまな症状の原
因が「住まい」にあると気づいている人はま
だごく一部です。そのような症状で悩んでい
る方たちの中にはその原因が住まいであるこ
とに気づいていない人のほうが多いと言えま
す。これはちょうど四日市のゼンソクや富山
のイタイイタイ病、あるいは熊本の水俣病が
原因不明と言われていた時期に相当します。
しかし、こうした日本列島を生物が住めない
環境破壊国家に傾斜させる建築のあり方に対
して民衆はようやく抵抗を始めました。それ
は大阪市北区のシックハウス集団提訴などの
例などに挙げられます。

現代のような住居の建て方を続ける限り、
今後このような提訴事件は後を絶つことなく
発生するでしょう。しかもこれは前述の公害
のようにある地域の被害だけでなく、ま
る全国規模の問題ですから、水俣病やイタイ
タイ病を超えて、全国的規模の被害による公
害事件史上最大の国家責任が問われるものへ

発展すると予測が立ちます。

しかも住まいに使われる薬物による被害は人体だけでなく、木材などを昔のように燃料とさえできない粗大ごみ化問題を発生させています。防蟻のヒ素なども、地下に浸透して地下水を汚染するという第三次公害にまで連鎖している現実があります。

私の身近な例を挙げると、アトピーの子供をかかえた友人などは、夜が明けないうちから病院に向かい、朝一番の診察番号を取りに出かけます。車中で仮眠し、病院の入り口に並び、検診にのぞむのです。夜中じゅう痒がって苦しむ子供を抱えて、親としてはどのようにしてよいのか、その手立てすらがないのです。家族の不幸は計り知れませんが、

現代住宅の短い耐久性にも問題があります。ある人は家を建ててから15年目に、家の腐朽が原因で改築せざるをえなくなり800万円をつぎ込んだが、それでも結局家の腐朽は止められず、手の施しようがないと判断し、またも新築したという人もいました。しかしその人は新築したもののローンが払えず破産したのです。このように短い耐久性という原因により、大きな経済負担によるアリ地獄への転落がまっているのです。家で苦しんだ結果、建てたばかりの家を離れることを決

断し、田舎に引越す人もいるけれど、ローンはついてまわるのです。

私達家族は新築あるいは改築する場合において、こつとした実情の中、どのようにすればよいのかと悩みました。

何が耐久性のある建て方なのかとか、どのようにすれば健康な住まいになるのだろうか、どうすれば子孫が喜ぶであろうかとです。

そして現代の害悪の状況は、今から20〜30年以前にはまったくなかった現象であることに気づいたのでした。

そしてさらにここに述べた20〜30年の期間を振り返ってみますと、日本の伝統ある家の建て方を忘れ、専門家と呼ばれる人たちの言動や、国家の政策などに振り回されている自分たちの状況にも気づいたのでした。

このようにして、現代が答弁に用いているわずか20〜30年のデータや机上の理論と、千年式千年の実大実証の史実とを天秤にかけますと、比べるにすら価しないことを痛感させられたのです。

つまり、長い歴史が立証した無公害で健康な住まいを、その伝統工法に基づいて建てるのが唯一の解消策だと私たちは気づいたので

私達を、いや大衆を救う意味と日本民族の

知恵つまり民族の宝というべき技術と知恵の断絶を防ぐ意義からにしても、呼吸大学が解明し子孫に宝を受け渡そうとする正統技法による建て方を多くの国民に気づいて頂き、その正しい技法が野外学習によって職人に習得され継承されるに協力できるのであれば、この土地はおおいに喜ぶでありましょう。

よって私達一家は、ここに呼吸大学の野外学習に関わるすべてに賛同し協力すると共に、学習に用いる土地のすべての責務を呼吸大学に委任することを表明します。

(M・S)



〔編集後記〕

生命が優先される新しい地球社会はみんなが力を出し合って創られてゆくんですね。地球のこと、そして未来のことを心から想う方々とながって、一緒に進んでゆける喜びは何ものにも代えがたいと感じています。

(hana)

お問い合わせ

呼吸大学 0595・24・1147

ゼ口企画大阪支部 0724・67・0644